

都城工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築計画Ⅱ
科目基礎情報				
科目番号	0078	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	浅野平八編著：わかる建築学 1「建築計画」 978-4761525262			
担当教員	横山 秀樹			
到達目標				
1) 各種建築の建築計画と基本設計に最低限必要な基本的な事項が説明できること。 2) 建築計画に関する人間および社会のからの要求・計画条件を把握できること。 3) 各種建築の基本的な計画ができること。 4) 各種建築の事例を建築計画的に理解が出来ること。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安 A	標準的な到達レベルの目安 B	未到達レベルの目安 C	(学生記入欄) 到達したレベルに○をすること。
評価項目1	建築物の計画・設計に必要な基礎的な知識を有し、各種建築物の計画・設計のポイントを説明できる。	建築物の計画・設計に必要な基礎的な知識をおおよそ理解している。	建築物の計画・設計に必要な最低限の知識を有している。	A ・ B ・ C
評価項目2	建築計画の歴史的背景や社会から建築に求められていることを十分に理解し、新しい建築物を提案できる。	建築計画の歴史的背景や社会から建築に求められていることを理解している。	建築計画の成り立ちをおおよそ理解している。	A ・ B ・ C
評価項目3	各種建築物に求められる空間的相互関係や社会的要求について十分に理解し、建築図面を描くことができる。	各種建築物の計画・設計の要点について理解し、建築図面を描くことができる。	各種建築物の基本的な計画・設計条件について理解し、ある程度建築図面を描くことができる。	A ・ B ・ C
評価項目4	各種建築物の計画・設計の要点を十分に理解し、実在する建築物について他人に理解できるようプレゼンテーションできる。	各種建築物の計画・設計の要点を理解し、実在する建築物について説明できる。	各種建築物の計画・設計の要点をある程度理解し、実在する建築物の特徴を把握できる。	A ・ B ・ C
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	建築空間の一般的に望ましいあり方と、その設計計画手法及び必要な検討事項を理解する。			
授業の進め方・方法	1) 計画手法と検討事項を抽象的ではなく具体的に説明するために、PPTや配布資料などによって設計例をできるだけ多く紹介するので、各施設計画の総合的な理解を手掛かりに受講者自らが意識的・自発的に建築空間を体験したり、建築家がデザインした設計例を学習すること。 2) 本講義は建築・都市の設計につながる科目である。自らの作品づくり・提案に必要な創造(想像)力や思考力を養う機会とすること。 3) 授業で得る知識は設計競技や資格取得(建築士、建築施工管理技士、福祉住環境コーディネーター等)につなげるためのものである。各自が積極的に課外活動に取り組むための機会とすること。			
注意点	授業は建築学科多目的演習室にて行う。 参考資料として、日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」(丸善出版)、初めての建築計画(学芸出版社)を使用すると共に授業内で適宜プリントを配布する			
ポートフォリオ				

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	3	
				教育や福祉系の施設(例えば、小学校、保育所、幼稚園、中・高・大学など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	

				文化・交流系の施設(例えば、美術館、博物館、図書館など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				医療・業務系の施設(例えば、オフィスビル、病院、オーディトリウム、宿泊施設等)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	0	50
専門的能力	30	0	0	0	20	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0